

経営管理上の価値の創造と道徳的推論の技術に関する研究

Managerial value commitment and moral reasoning

プロジェクト代表者：水村典弘（経済学部・准教授）

英語表記 Norihiro Mizumura

本研究で、申請者は、経験科学の系統に連なる経営学の検討課題に規範倫理学のフレームワークを取り込んで、経営管理上の倫理的な意思決定のフレームワークの構造と機能を解明した。本研究は、価値多元社会を想定して、ステークホルダーに固有の権利とそれに伴う利益を経営管理上の価値判断の基準として採用した点において特徴的である。本研究は、以下の内容から構成されている。

第1部（現代におけるビジネスと企業組織の価値基準）

①現代におけるビジネスの解釈と価値：専門的経営管理者の養成機関として知られる経営大学院で実施されている高度に専門的な経営管理教育の課程の歴史と内容を俯瞰したうえで、経験科学と規範倫理学の融合を試みた。②ビジネスの目的と企業組織の価値基準：一連の企業スキャンダル以後の合衆国で「AACSB (The Association to Advance Collegiate Schools of Business) インターナショナル」（経営大学院の認証機関）を機軸として説かれるようになった「価値による経営管理」（Management by Values）を射程に収めて、経営管理者の判断や行動が準拠すべき「企業組織の価値基準」（Corporate Values）の内容と構成を明らかにした。③企業組織の価値基準と「V2V (Values into Value) モデル」：ジョンソン・エンド・ジョンソン 日本法人クレド・オフィスの協力を得て、企業組織の価値基準から可視的な価値を導き出すためのプログラムをモデル化して検証した。

第2部（企業組織とステークホルダー）

①ステークホルダー論者のロジックとステークホルダー型の経営管理モデル：企業組織の価値基準は、企業組織とステークホルダー間で共有可能な価値の内容を具体的かつ詳細に規定している。いわゆる「CVS (Create Value for Stakeholders) モデル」である。本章（①）で、申請者は、企業組織とステークホルダーの関係を理論化したステークホルダー論者のロジックを紐解き、「人間中心的な世界観」（human Centered Worldview）に立って構築された「ステークホルダー・ベースの経営管理モデル」の構造と機能を解明した。②企業組織とステークホルダー：企業組織とステークホルダー間の関係の構造を抽象して論理的に形式化するために、ステークホルダー論者のロジックに沿って、ステークホルダー概念を再定義した。③公開企業とステークホルダー：企業組織とステークホルダー間で共有可能な価値の内容を取り扱ううえで、対象となる企業組織が公開企業か否かは重要である。企業組織の周辺部に放射状に配置されたステークホルダーの群のなかでも株主は特別な位置を占めていると考えられてきているからである。本章（③）で、申請者は、株主の利己主義的な側面と利他主義的な側面を区別したうえで、株主資本主義に代わるステークホルダー資本主義の構想を展開した。④ステークホルダー型企業モデルの構造：企業組織の周辺部にステークホルダーの群を放射状に配置して、企業組織とステークホルダー間の関係を二次元の図で示した。こうしたステークホルダー型企業モデルは、経営管理者が相応の義務を履行すべきステークホルダーの輪郭を浮き上がらせることができる。⑤現代経営学のドグマと価値ベースの企業組織：ステークホルダー型企業モデルに付随的な多目的最適化問題を指摘したうえで、価値ベースの企業組織を展開した。